

第4回例会開く

鉄筋継手研究会

九州地区の鉄筋継手専門業者で構成する鉄筋継手研究会（事務局長・㈱アクティス河村貴夫代表取締役）は10日、「第4回例会」写真を福岡



市博多区の福岡国際会議場で開催、セネコン、設計事務所、施工業者、継手メーカーの90人が参加した。

て説明した。

第2部講演では、「機械式継手FDグリップ紹介」を㈱富士ボルト製作所の森澄修康氏が説明、星野弘義氏が実演を担当した。

FDグリップとは、接

合する鉄筋の両端部にあらかじめ工場において「めねじ」加工の施してあるスリーブ（鋼管）を、専用スウェージ型圧着機で冷間圧着加工し、現場において対向するス

リーブのめねじどおしを。高強度の接続ボルトで接合する工法。鉄筋母材以上の強度を有し、接続ボルトで接合し締め付けた後、規定トルクを導入するだけで簡単としている。

今後の予定は、第5回を今年12月、第6回を来年6月に予定している。同研究会に関する問い合わせは、電話092-501-5963番まで。

市博多区の福岡国際会議場で開催、セネコン、設計事務所、施工業者、継手メーカーの90人が参加した。

開会挨拶で河村事務局長は「第4回目となる今回は、高層建築用継手としてニーズが高まる機械式継手工事をテーマに、品質管理のポイントやFDグリップの紹介を行う。評定機関である日本鉄筋継手協会や日本建築センターの対象鉄筋継手などについても説明する。正しい知識を共有し有意義なものとしてほしい」と挨拶。

第1部講演では、「機械式継手工事、品質・施工管理のポイント」のテーマで清水建設㈱生産技術本部品質管理部検査グループの角陸純一氏が講演、機械式継手の種類及び施工方法、品質管理、検査項目などについて